

2026 年 10 月 15 日

Humanitext プロジェクトが 米国 Schmidt Sciences の国際研究プログラム「HAVI」に採択！ ～AI と専門家の協働で、西洋古典をつなぐ「知の系譜」を可視化へ～

【本採択のポイント】

- ・名古屋大学の岩田 直也 准教授らの「Humanitext(ヒューマニテキスト)」プロジェクトが、Google 元 CEO のエリック・シュミット氏らが設立した米国 Schmidt Sciences(シュミット・サイエンス)※¹ の国際研究プログラム「Humanities and AI Virtual Institute (HAVI:人文学と AI 仮想研究所)※²」に採択。(助成額:3 年間で 81 万 6,667 米ドル(約 1.3 億円))
- ・世界 42 か国・501 件の応募から 19 件が採択。
- ・本プロジェクトでは、AI が提案し専門家が検証する「人間と AI の共創」で古典文献間のつながりを知識グラフ化し、信頼できる AI の実現を目指す。(プロジェクトの詳細については【プロジェクト概要】(4 頁～)を参照)

【採択概要】

名古屋大学デジタル人文社会科学研究推進センターの岩田 直也 准教授(クロスアポイントメント機関:国立情報学研究所)を研究代表者とし、桜美林大学の田中 一孝 教授、東京大学の小川 潤 助教、大向 一輝 准教授、国立情報学研究所の上松 大輝 特任研究員から成る研究グループのプロジェクト「Humanitext: A Human-AI Co-Creation Platform for Verified Classical Scholarship(検証可能な古典研究のための人間と AI の共創プラットフォーム)」が、米国の非営利団体 Schmidt Sciences の「HAVI」に採択されました。

2026 年の HAVI には世界 42 か国から 501 件の応募があり、19 件が採択されました。本プロジェクトへの助成総額は、2026 年 10 月から 2029 年 9 月までの 3 年間で 81 万 6,667 米ドル(約 1.3 億円、1 ドル=158 円換算)です。助成金は 2 期(各 18 か月)に分けて交付され、第 2 期分は進捗評価を経て交付される予定です。

本プロジェクトでは、AI(大規模言語モデル)が古典文献どうしの引用・批判・言い換えといった「つながり」の候補を提案し、専門家がそれを検証・修正することで、文献間の関係について根拠

Press Release

をたどれる形でデータ化します。専門家が検証した知識に基づいて答える、信頼性の高い AI の実現が期待されます。

【補足説明】

※1 Schmidt Sciences について

米 Google 社の元 CEO である Eric Schmidt (エリック・シュミット) 氏と、Wendy Schmidt (ウェンディ・シュミット) 氏が 2024 年に設立した米国の非営利団体です。AI・先端計算、天体物理学、生命科学、気候、宇宙などの分野を中心に、最先端のツールを活用して科学的知見とブレークスルーを加速させる取り組みを行っています。

2026 年 HAVI 採択プロジェクト一覧(英語)

<https://www.schmidtsciences.org/havi-2026-announcement/>

※2 HAVI(Humanities and AI Virtual Institute)について

Schmidt Sciences が運営する、人文学と AI の研究者が協働して双方の発展を目指す国際研究プログラムです。人類の歴史・文化・表現を探究する学際的プロジェクトを支援し、開発されたコード、モデル、ベンチマークデータなどを広く公開することを重視しています。過去 2 年間の助成総額は 2,100 万米ドルを超えます。

<https://www.schmidtsciences.org/humanities-and-ai-virtual-institute/>

【研究者連絡先】

名古屋大学 デジタル人文社会科学研究推進センター

准教授 岩田 直也(いわた なおや)

TEL:052-789-2211

E-mail:n.iwata@nagoya-u.jp

【報道連絡先】

名古屋大学総務部広報課

TEL:052-789-5773 FAX:052-788-6272

E-mail:nu_research@t.mail.nagoya-u.ac.jp

桜美林大学 総合企画部広報課

TEL:042-797-9772 FAX:042-797-9829

Email:webadmin@obirin.ac.jp

東京大学大学院 人文社会系研究科 総務チーム

TEL:03-5841-3704 FAX:03-5841-3817

E-mail:shomu@l.u-tokyo.ac.jp

Press Release

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
国立情報学研究所 総務部総務企画課 企画・広報チーム
TEL:03-4212-2164 FAX:03-4212-2035
E-mail: media@nii.ac.jp

Press Release

【プロジェクト概要】

■ 研究の背景

西洋古典学は、ひとつの文章に対して複数の読み方や翻訳、何世紀にもわたる注釈の伝統が積み重なる、解釈の層の厚い学問です。こうした知識は単純なデジタル化にはなじみにくく、汎用のAIに尋ねても、出典の取り違えや存在しない引用といった誤り（ハルシネーション）が生じやすいという課題がありました。研究グループはこれまで、ギリシア語・ラテン語の古典 2,300 作品以上を対象に、自然な言葉で問いかけると根拠となる原典箇所を示して答える AI 研究プラットフォーム「Humanitext Antiqua（ヒューマニテキスト・アンティクア）」を開発・公開してきました（2024 年 8 月公開）。

■ 研究の内容

本プロジェクトでは、この基盤の上に、AI と専門家が協働して古典文献間の関係を構築する仕組みを開発します（図 1）。まず研究者自身が、哲学の注釈・歴史叙述・文学的引喩といった複数のジャンルから 500 件の関係を手作業で構築し、データ設計の検証と評価の基準とします。そのうえで AI が文献間の関係の候補を提案し、専門家と大学院生のチームが一件ずつ採択・修正・却下を判断します。検証された関係は、「引用」「引喩」「言い換え」「批判」といった種類や、どちらがどちらを引用・批判しているかという向き、確からしさ、検証の来歴をもつグラフ（カノニカル・グラフ）として蓄積され、知識ベース構築ソフトウェア Wikibase とグラフデータベース Neo4j を組み合わせて管理します。さらに、検証済みの関係を AI の回答根拠として活用する手法（GraphRAG）により、従来の検索拡張生成（RAG）と比べて AI の回答の信頼性や引用の正確さがどれだけ向上するかを、外部の古典学者の協力も得て評価します。3 年間で 1 万件以上の検証済みの関係の構築を目指し、3 年目にはラテン語文献にも展開して、言語や文学伝統を越えて適用できることを示します。

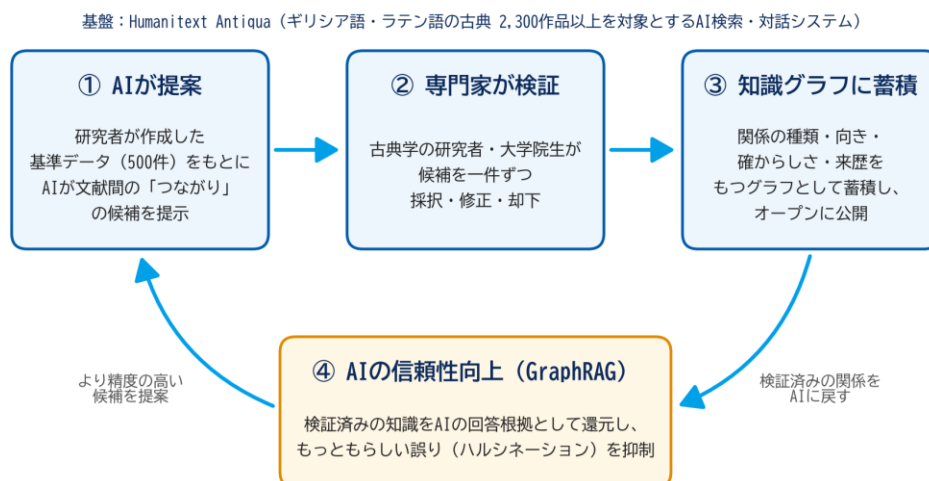


図 1: AI と専門家の協働による知識グラフ構築のサイクル

Press Release

■ 期待される成果と波及効果

構築した知識グラフ、注釈用ソフトウェア、評価用ベンチマークデータはオープンなライセンスで公開し、知識グラフに基づく機能は Humanitext で一般にも提供します。どの議論が注釈者の間で最も争われてきたか、思想が時代や伝統を越えてどう変容したかといった、これまで定性的に問われてきた問いに、データに基づいて答えられるようになります。また「AI が提案し、専門家が検証し、検証済みの知識が AI を改善する」という仕組みは古典学に限らず、医学文献や法律分野など、正確さが強く求められる専門分野への応用も期待されます。



図 2:本プロジェクトの基盤となる Humanitext Antiqua

Humanitext:<https://humanitext.ai/>

■ 研究体制

氏名	所属・職名	主な役割
岩田 直也 (研究代表者)	名古屋大学 デジタル人文社会科学研究 推進センター 准教授(クロスアポイントメ ント機関:国立情報学研究所)	研究統括、間テキスト性研究の設計、 RAG／GraphRAG 開発の統括、専門家 としての最終検証
田中 一孝	桜美林大学 リベラルアーツ学群 教授	ギリシア哲学の専門的知見、注釈の品質 管理(作業指針の策定、注釈者間の一致 度の評価)、専門家としての最終検証
小川 潤	東京大学 大学院人文社会系研究科 助教	グラフ設計、LOD 連携、注釈インターフェ ース開発
大向 一輝	東京大学 大学院人文社会系研究科 准教授	知識グラフ基盤全体の技術的統括
上松 大輝	国立情報学研究所 特任研究員	Wikibase の構築、人物・作品などの同 定

Press Release



写真:研究チーム(左から 岩田 直也、田中 一孝、小川 潤、大向 一輝、上松 大輝)